

説明会 質疑

(2016年12月21日 14時～15時 @2号館 共用会議室2A)

Q：ワーキンググループ（WG）の具体的なアウトプットとして何を目標しているか？ 既存の規定類の修正なのか、単なる話し合いなのか？

A：現場での技術活用のほか、基準・制度等の変更、受注者側の安全・施工管理の改善など、アウトプットは様々である。2025年の生産性2割向上に寄与するよう、建設分野外も含めてWGには積極的に参加頂きたい。

Q：「組織として参加するか否かを把握したい」という意味は、コンソーシアムの代表に1人、WGに1人ずつ参加する場合でも、登録は1人にしておいた方が良いということか？

A：まずは代表者1人を窓口として登録して頂きたい。WGについては別途メーリングリストを作成するなど検討する。代表者はWGに入らなくても良い。

Q：技術開発・導入 WGの説明に国等が指定するテーマはウェブサイトに掲載するとあるが、いつ頃の予定か？ 技術開発のスケジュールは国の補助の有無に関わらず適用されるのか？

A：2月に設置予定のWGの中でスケジュールを決めて行く。スケジュールは国の補助の有無に関わらない。まずはニーズとシーズをしっかりと把握するのが趣旨で、技術開発が開始されたら、その中で国の補助も出てくる可能性がある。

Q：WGの規模、頻度はどの程度を想定しているか？ 3年後を目途にプラットフォームを構築した後のコンソーシアムの計画やスキームは存在するか？

A：WGの規模、頻度は決めていない。WGには全員が参加できない可能性もあり、例えばアンケートへの回答、マッチングイベントのみ参加、などいろいろな参加方法がある。3年後のプラットフォームは3次元データの利活用をイメージしている。会員の希望により、WGを増やしたり、廃止したりすることもある。

Q：技術開発の3年間は短いと思うが、知財についてはどう取り扱うのか？

A：知財は国の研究開発の制度に従って運用する。

Q：国直轄、大手ゼネコン、地方中小など現場は様々であるが、どのようなニーズを想定しているか？

A：国から地方まで全てのニーズである。テーマを分類することも考えている。全国津々浦々の現場が効率化していくことを狙っている。

Q：準備会が企画委員会に移行するとあるが、メンバーを教えてください。

A：メンバーは公開している。有識者に建設業界団体を加えた体制を考えており、総会で承認頂く。

Q：会員数の規模感は？ 建設業界以外の会員はたくさん集まるのか？

A：数の目標は特になく、できるだけ多くの方に入って頂きたい。会員募集は随時行っている。

Q：各 WG への参加要件は？ IoT やロボット等以外の技術で何か役に立ちたいと思っている。

A：何が出てくるか想定できないのでコンソーシアムを作っている。是非、参加してご提案頂きたい。

Q：5月に二ーズ・シーズのマッチングの後、技術開発を行うというスケジュールでよいか？

A：1回目の基本的な流れを示している。社会実装を含めてどんどん回していくイメージである。具体の回し方はWGで検討する。

Q：ICT導入協議会などの他の委員会とコンソーシアムの関係について知りたい。

A：コンソーシアムは生産性向上のため、共通認識を持って官民連携を進めて行く協議体である。様々な提案やアイデアを現場に適用していくことを目指している。技術的な検討は既存の協議会等で行っていくこととし、連携して進めていきたい。

Q：コンソーシアムでの検討結果が基準類の改訂に結びつくこともあり得るか？

A：当然あり得る。コンソーシアムからその提案が出てくることも想定している。

Q：既に会員登録しているが、今後の流れを教えてください。

A：総会は来年1月中下旬頃に開催する予定である。開催案内を行うため、年内または1月の早いうちにご登録頂きたい。